

Dispatch date:

Drafting date: September 25, 2009

The following is an excerpt of Notification of Reason(s) for Refusal of patent application No. 2004-249914 that includes a description of the examiner's reasoning that underlies the refusal of the patent application.

Note (The list of cited documents etc. is shown below)

(With regard to the inventions in claims 1 to 3)

- Cited documents: 1 and 2

Remark:

The cited document 1 describes a second air supply device that forms a basic part of the inventions of the claims 1 to 3 of the subject application.

According to the cited document 2, an abnormality diagnosis is performed by detecting the pressure pulsation in a second air passage while suspending the supply of secondary air to the exhaust system.

Setting the open state and the closed state of each valve to identify the valve to be diagnosed is a simple design matter to those skilled in the art.

Further, performing abnormality determination in a state where a change in the pressure can be accurately detected is a technique that persons skilled in the art could have easily through of based on their knowledge.

The list of cited documents etc.

1. Japanese Patent Application Publication No. 2004-11585
2. Japanese Patent Application Publication No. 09-125945

Record of the result of prior art search

Searched technical fields:	IPC
	F01N 3/22
	F01N 3/20
	F01N 3/32

Prior art documents

1. Japanese Patent Application Publication No. 2003-314263
2. Japanese Patent Application Publication No. 05-179936

3. Japanese Patent Application Publication No. 09-21312
4. Japanese Patent Application Publication No. 08-200541
5. Japanese Patent Application Publication No. 2002-266707
6. Japanese Patent Application Publication No. 10-77825

This record is not a component(s) of the reason(s) for refusal.

P.1

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2004-249914
起案日	平成21年 9月25日
特許庁審査官	佐々木 訓 9818 3G00
特許出願人代理人	深見 久郎（外 3名） 様
適用条文	第29条第2項、第37条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出してください。

理 由

(理由1)

この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

(理由2)

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記 of 刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記

(理由1)

請求項1～3に係る発明は、「2次空気供給装置の第2の開閉弁および第3の開閉弁の故障を的確に検出する」ために、「前記第1の開閉弁が開状態となるように制御され、前記第2の開閉弁および前記第3の開閉弁が閉状態となるように制御され、かつ前記空気ポンプが停止状態となるように制御されている場合における前記圧力検出手段の検出結果に基づいて、前記2次空気供給装置の故障を検出するための故障検出手段」を有する2次空気供給装置であるのに対して、

請求項4～7に係る発明は、「前記車両の搭乗者が感じる音に関する情報を検出するための手段と、前記音の大きさが予め定められた値よりも大きい場合、前記空気ポンプを作動させるための手段と、前記空気ポンプが作動するように制御されている場合における前記圧力検出手段の検出結果に基づいて、前記2次空気

P.2

供給装置の故障を検出するための故障検出手段」を有する2次空気供給装置である。

したがって、請求項1～3に係る発明と、請求項4～7に係る発明とは、同一の又は対応する特別な技術的特徴を有しておらず、この出願は、特許法第37条

に規定する要件を満たさない。

この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項1～3以外の請求項（請求項4～7）に係る発明については特許法第37条以外の要件についての審査を行っていない。

（理由2）

- ・請求項 1～3
- ・引用例 1～2
- ・備考

引用例1には、前提となる2次空気供給装置が記載されている。

引用例2には、排気系への2次空気供給を停止した状態で2次空気通路内の圧力脈動を検出して故障を診断することが記載されている。

故障判定を行う開閉弁を特定できるように各開閉弁の開状態、閉状態を設定することは、当業者にとって単なる設計的事項にすぎない。

また、圧力変動を精度良く検出可能な状態で故障判定を行うことも当業者にとって通常の創作能力の発揮にすぎない。

・引用例一覧

1. 特開2004-11585号公報
2. 特開平9-125945号公報

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野

I P C	
F 0 1 N	3 / 2 2
F 0 1 N	3 / 2 0
F 0 1 N	3 / 3 2

・先行技術文献

1. 特開2003-314263号公報
2. 特開平5-179936号公報
3. 特開平9-21312号公報
4. 特開平8-200541号公報

P. 3

5. 特開2002-266707号公報
6. 特開平10-77825号公報

この先行技術文献調査結果の記録は拒絶理由を構成するものではありません。

この拒絶理由通知の内容に関する問い合わせ先
面接希望の連絡先

特許審査第二部 動力機械 佐々木 訓(さとし)
TEL 03-3581-1101 内線3353

部長／代理	審査長／代理	審査官	審査官補
	中村 則夫	佐々木 訓	
	9 1 4 8	9 8 1 8	
